

チェックテスト 解答

2章 評価学

1 評価の流れと評価手段 (p.106)

①

処方箋⇒評価順序の組み立て⇒評価実施⇒評価まとめ⇒治療計画立案。また、評価・治療の影響を考慮したうえで、評価手段の順序を決める。

②

情報収集、観察、面接、検査

③

多次元の見方、全体的見方、評価者による相違

④

観察力、感受性、自己洞察、吟味力

⑤

事後検討が可能である。個人の経験を他者と共有することができる。

⑥

場面の具体的状況、そこで起こったこと、対象者の動きなどをありのままになるべく日常用語を用いて書く。

⑦

個人を特定しないように、匿名化する。守秘義務を負う。

⑧

記録物と担当者・関係者から直接収集する。

⑨

疾患、治療に関する情報など

⑩

日中の様子、看護内容と指導など

⑪

受入先、社会的な援助など

⑫

心理検査の結果、心理療法の内容など

⑬

経過、一般的行動、対人関係、課題の取り組み、治療方針など

⑭

一般的行動、課題への取り組み行動、対人関係

⑮

外見、表情、動き、感情、会話、奇異な行動など

⑯

参加度、集中、指示への対応、課題のレベル、問題解決、興味など

⑰

二者関係、集団関係、対人パターン、依存性、自己主張など

⑱

幻覚、妄想、顕著な思考形式の障害、緊張病症状など

⑲

感情鈍麻、思考障害、意欲低下、自発性欠如、無快楽症など

⑳

考想化声、問答形式の幻声、自己の行為を批評する幻聴、させられ体験、考想奪取、考想伝播、妄想知覚など

㉑

連合弛緩、感情障害、両価性、自閉

㉒

唯一の対象者側の考えを知る方法である。

㉓

秘密が守れる構造、斜対面、広すぎない部屋など

㉔

自己紹介、目的の確認、動機の確認、情報収集、感想の聴取、次回など

②⑤

傾聴, 受容, 共感的理解など

②⑥

安易にわかりすぎない, 自己観察, 質問様式など

②⑦

簡単な受容, 内容の要約, 感情の反射, 明確化など

②⑧

スクリーニング, 選択的探索, 裏付け調査, 変化の確認

②⑨

箱作り法, アジマ・バッテリー・テスト, HTP テスト, 興味チェックリスト, 日常生活行動評

価, COPM

③⑩

妥当性, 信頼性, 実用性

2 各種検査法 (p.125)

①

家族の影響, 感情的反応, 人生の役割選択, 満足と適切な行動, 行動の維持, 自己認知

②

興味の特徴, 自己認知, 行動様式, 表現能力, 種目の区別化, 評価 (検査中の態度, 客観的所見, 考察) など

③

家屋, 樹木, 人物を描画する。

④

家庭状況や家族関係

⑤

無意識の自己像や自己についての感情

⑥

自己の現実像や理想像, 人間一般に対する認知

⑦

集団の目標, 対象者の同質性, 交流手段, 期間・頻度, 場所, メンバー間の相互作用, 閉鎖性と開放性, スタッフの構成と役割・リーダーシップ, 集団凝集性, 集団関係技能, 集団心性, 療法的因子

⑧

参加の目的, 参加の頻度, 参加の意欲, 集団への関心, 集団への所属感, 集団関係技能, 集団内の役割, 他者へのかかわり, 他者からのかかわり

⑨

1.病的症状, 2.未学習, 3.遂行機能障害

⑩

1.適切に洗える, 2.注意助言が必要, 3.洗わない, 4.不明

⑪

現実的, 研究的, 芸術的, 社会的, 企業的, 慣習的

⑫

一般職業適性検査, ワークサンプル法, 知能検査, 学力検査, 性格検査など

⑬

精神障害者社会生活評価尺度

⑭

精神障害者の「生活障害」を包括的にとらえること

⑮

持続性・安定性, 自己認識, 日常生活, 対人関係, 労働または課題の遂行

⑯

カナダ作業療法士協会は, ロジャーズが提唱したクライアント中心療法の考え方を援用し, クライアント中心の作業療法という考え方を確立した。これは「人が作業を行うことを可能にするためのクライアントと作業療法

士の協業的アプローチ」と定義付けられる。
人は、作業的存在であるという立場に立って、クライアント個人がもっている経験や知識を作業療法士が十分に認識したうえで、クライアント自身を尊重し、クライアントはともに作業療法を行っていくうえでの協業者、と位置付けた。

⑰

1.重要度, 2.遂行度, 3.満足度。これら3項目をクライアントがどのように認識しているかについて半構造化面接を用いながら、それぞれを10段階尺度で評定する。

⑱

「逸脱行動」と「全般的行動」

3 評価のまとめ (p.138)

①

情報収集, 観察, 面接, 検査

②

重要な事柄のピックアップ, まとめ, 関係性の検討, 全体像の検討, 治療目標の設定

③

ある理論の枠(精神分析理論, 発達理論, 行動理論, 人間作業モデルなど)に沿って, 事柄を組み立てる(仮説立案)

④

一般的・専門的情報, 作業療法/デイ・ケア評価, 評価のまとめ, 治療計画, 経過・結果・考察, 今後の治療計画

⑤

問題点および利点・参考点の関連性, 症例の全体像

⑥

頻度, 時間, 期間, 場所, 活動内容, 治療者の態度, 集団の活用などの設定とその理由

⑦

対象者の経過と治療者自身の経過。治療形態の効果, 短期目標の達成

⑧

陰性症状のある症例

⑨

対人関係の障害と生活リズムが乱れやすい症例

⑩

活動性の改善, 興味関心など楽しみの拡大, 実習学生との治療関係の確立

⑪

メンバー同士の交流による対人関係技能の向上

⑫

見学・模倣・実施

⑬

技術項目

⑭

なれなれしい態度を避け, 常に人間性を尊重し誠意ある態度を心掛ける。

⑮

学生同士の情報交換時や, 学校への提出物の記載, カルテ, メモなどを扱うとき

⑯

実習地で行われているすべてのことに積極的
態度で臨む。

⑰

報告, 連絡, 相談(「ほうれんそう」)を心掛け, 身に付ける。